

# 県南きゅうりタウンの拡大

## 目的

県南地域は、温暖で冬季の日射量が多い気候を利用した県下の促成きゅうり産地となっているが、高齢化等で栽培面積は減少しつつある。さらなる産地強化のため、広域で新規就農者の受け入れ環境の整備と栽培技術修得を支援し、「県南きゅうりタウン」として再生を図る。

## 課題

### 【人材面】

- ・新規就農者の確保による生産者数維持拡大
- ・即戦力の農作業ヘルパー確保・養成

### 【施設面】

- ・老朽化施設の更新
- ・空きハウスの有効活用
- ・資材価格高騰に対する初期投資負担軽減

### 【技術面】

- ・複合環境制御技術の修得
- ・養液栽培者の収量向上

## 課題解決に向けて

### 【人材面】

- ・県南の魅力発信や「農ある暮らし」の提案で、県内外から就農予備軍を誘導
- ・就農相談会やお試しトレーニングファームにより、就農希望者を確保
- ・農作業ヘルパーの養成・マッチングで労働力確保
- ・高収益モデルの実証（収量25t/10a、所得目標1,000万円）

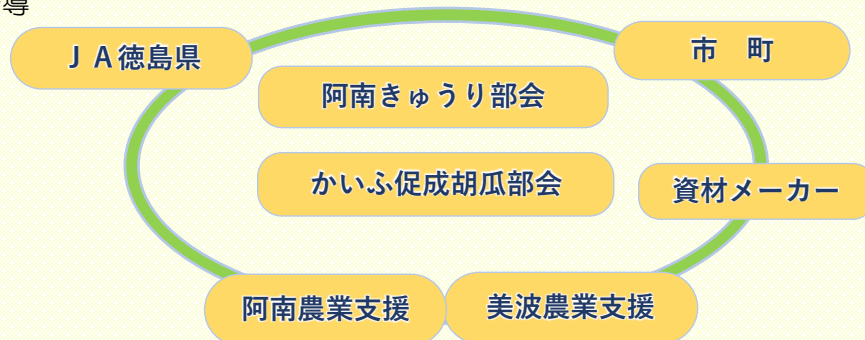
### 【施設面】

- ・既存施設や遊休施設の現状把握と修繕・更新等整備計画作成
- ・トレーニングファームやレンタルハウスの設置推進
- ・高収益モデルの遂行に向けた複合環境制御システムの導入促進

### 【技術面】

- ・「きゅうり塾」や「けんなんニューファーマー育成講座」の開講
- ・トレーニングファーム設置による、ベテラン農家からの実践的技術伝承
- ・ベテラン農家の複合環境制御技術のデータ分析と有望品種の検討

## 【プロジェクトチーム】



## 目指すべき姿

**西日本有数の生産量を誇る「県南きゅうりタウン」として再生し、にぎわいのある県南地域が実現**

- ・施設園芸産地の活性化に向けて、南部圏域一体となった促成きゅうりの生産体制の強化が図られている。
- ・施設整備計画が策定でき、促成きゅうり栽培で活性化した農業農村の未来像が創造できている。

（3年後の成果目標）

生産戸数 R5：57戸（あなん27戸・かいふ30戸） → R8：57戸 生産量 R4：21t/10a → R8：25t/10a  
栽培面積 R5：8.8ha（あなん3.8ha・かいふ5.0ha） → R8：8.8ha 出荷量 R4：1,862t（あなん814t・かいふ1,048t） → R8：2,200t

